

英語で工学の世界を広げよう

〈学部・修士海外英語演習〉

EG Academy校 @フィリピン・アンヘレス市(8/4~9/7、35日間)

Overview

マニラの空港から車で約2時間、クラーク国際空港から20分のところにある語学学校。生活に必要なものは徒歩圏内に揃っている、治安の良い便利な場所に位置しています。フィリピン人講師によるマンツーマンレッスンをはじめ、ネイティブ講師のグループレッスンも受講可。日本人以外の学習者も滞在しているため、グローバルな人的交流を通じ、自身の英語力を試せます。

Case 1



参加学生

新海 翔大さん

Shodai SHINKAI

学部3年(半田高等学校[愛知県]出身)

「異文化」に身を置き英語を学ぶ

フィリピン到着後にまず驚いたのは「日本との交通事情の違い」です。渡航前のオリエンテーションで説明を受けていたため、ある程度は覚悟していましたが、日本の事情とはかけ離れていたため、最初は戸惑いました。日常とは全く違う「異文化」の中で英語学習に取り組むことに対し、期待と不安が入り混じっていたように思います。私たちが滞在した「EG Academy」の先生は、同じClark地区にある「Mabalacat City College」の学生が多く、私たちと同世代。レッスン中の話も弾み、リラックスして学習することができました。楽しみながら、英語の会話力を養うことができる環境だったと思います。

自分で「英語漬け」の環境を作る

日本を離れ、日常とは異なる環境で学ぶ機会。これを何とか活かそうと、レッスンの時間外も自分なりに工夫して過ごしました。「EG Academy」の先生とのレッスンだけで英語を学ぶというのはもったいないため、他国から来ている留学生と積極的に交流しました。今回「EG Academy」に滞在した豊田工大生は23名と多数。意識しないと友人同士で過ごしてしまいがちですが、豊田工大

の仲間だけでなく、台湾などから来ていた学生と行動を共にし、意図的に英語環境を作り、「英語漬け」の時間を過ごすように心がけました。日本語で会話してしまうと、彼らが話の内容を理解できないため、みんなで楽しむことができません。そんな空気を作らないように、日本人同士でも自然と英語を使うようになるなど、常に英語で会話する「マイ・ルール」を持ちました。また、彼らの高い英語力にも刺激され、これからの英語学習への意欲となったように思います。

この英語環境のおかげだったのか、TOEICのリスニングスコアが留学後100点以上アップするなど、効果を実感することができました。一方で、リーディングの結果には少し課題を残してしまったので、バランスの良い英語学習を意識して、今後も英語力を向上させたいと思っています。



英語環境を自分でつくり、実践の場



フィリピンの庶民の足、ジブニーでの移動にも挑戦。戸惑いながらも「異文化」を楽しむ



「非日常」を味わえる貴重な機会をどう過ごすかはその人次第

日本だけでは完結しない、といっても過言ではない、グローバル化が進む「モノづくり」。世界の技術者・研究者と対等に協働するために、工学の専門的能力に加え、高い英語力の修得は、本学学生にとって不可欠なものとなっています。

英語での円滑なコミュニケーションを図るためには、単なる語学学習だけではなく、まずは相手のことをより深く理解したいという好奇心や自分のことを理解してもらいたいという気持ちを育むことも大切です。

本学では、語学学習および異文化理解の深化のためにさまざまな留学プログラムを提供しています。日本を離れ、現地の人びととの交流を通じ、自己理解を深めるプログラムから、国際的な環境で自身の研究をより発展させるプログラムまで、レベルや目的に合わせて挑戦することができます。2024年度に各プログラムに参加した学生の声を集めました。

Case 2



参加学生

峰松 忞成さん

Issei MINEMATSU

学部2年(名東高等学校[愛知県]出身)



出発前、学内の「海外英語演習事前課題ポスター発表」で滞在先の理解も深める

学内の英語学習の仕組みとの連動

昨年海外英語演習に参加した同級生から、「英語にどっぷり浸かった生活」が送れると聞き、そのような環境に身を置いて、言葉としての英語のセンスを磨きたいと思ったことが、このプログラムの参加を決めた理由です。もともと英語には苦手意識があり、入学して以来、時間を見つけては学内施設のiPlazaに足を運び、英語学習に取り組んでいます。時には歯がゆさを感じながらも、それを「ばね」にしていますが、夏休みの期間を利用して、今の実力を確かめることができたのは良かったと思っています。

「国」だけではない枠を超えて、さまざまな人と学ぶ

自分が普段生活している空間を離れ、普段は接点がない人達と交流することで、さまざまな気づきがありました。フィリピン、台湾、ベトナム、サウジアラビア…といった、「国」という枠だけではなく、小さな子どもたちとお母さん方、仕

事をしている社会人や小中学生など、多様な立場の人がスクールに滞在しており、その人たちとの関わりを通じて、視野の広がりを感じました。スクールに到着してすぐ、ほかの国から来た学生と食事に行ったり、同じスクールに滞在する子供たちと触れ合ったり、普段の生活とは全く違う時間を過ごすことにより得られた「枠にとらわれず人とつながってみよう」というワクワクした気持ちが、英語力向上への意欲を盛り立ててくれたように思います。

フィリピンという外国までやって来て英語を学ぼうとしている人たちは、基本的に誰かと「つながりたい」という気持ちが旺盛な方が多いです。さらに、何事に対しても向上心が強かったり、自己表現に積極的であったり、その姿に触発されて自分のモチベーションも上がっていきます。また、現在もiPlaza活動などに参加し、英語の会話力を継続して磨いていますが、夏休みで強化した英語力を、学内の恵まれた環境を活用してさらに向上させ、工学の研究の場でも発揮できる水準にまで高めたいと考えています。



多様性に富んだ環境は、学習意欲の向上に好影響をもたらす



日本から持参した折り紙を用いて、交流の機会を自ら企画

〈学部・修士海外英語演習〉

 **カリフォルニア大学デービス校 (UC Davis)**
@米国・カリフォルニア州(8/8~9/10、34日間)

Overview

サンフランシスコ国際空港から車で約1時間半のところにあるデービス市。市の人口約6万人の半数が大学生または大学関係者という、大学を中心に形成されている学園都市です。市の中心的な存在、UC Davisで実施される「English for Science and Technologyコース」では「最新の工学・科学に関するトピック」の学習や「異文化研究プロジェクト」などで、学術における実践的な英語の習得を目指し、その一方で、ホームステイでの生活を通じて、「生きた英語」を学びます。

Case 3



参加学生
安田 優也さん
Yuya YASUDA
修士課程1年/スピントロニクス研究室
(明和高等学校[愛知県]出身)

学外実習の場で気づいた英語の必要性

学部3年次の学外実習で、実習先企業の海外取引先との会議の場に同席させてもらったことがあります。エンジニアの皆さんが巧みな英語で会話をしている現場を経験したこともきっかけの一つとなり、以前から留学したい気持ちがありました。大学祭実行委員やサークル活動などで忙しかった学部時代を経て、修士課程進学後での実現となりました。研究室での研究活動を通じ、英語力向上の必要性をさまざまな場面で感じているため、英語ネイティブから学べるこのプログラムの参加を希望しました。

「とにかくトライ!」のアウトプット中心

「実践」を意識したプログラムで、授業では先生が「とにかくトライしてみてください」といったスタンスで、失敗しても気にならない環境を提供してくれました。そのおかげで、いろいろな表現やフレーズを使って積極的にアウトプットできたのはとても良かったと思います。

特に印象的だったのは、留学生が2人ペアとなり校内を歩き交う人に声をかけ、アンケートを行うグループワークです。大学の構内とはいえ、学生だけではなく、さまざまな方がいるため、教室内と比べてコミュニケーションの難易度は格段に上がります。声をかけ立ち止まってくれた方も、私たちが語学を学ぶ留学生だとは知らないですし、こちらが会話の「主導権」を持っているため、相手任せにすることはできず、自分が話を盛り上げないとアンケートの内容が聞き出せません。この「実践」は、英会話の発信力や反応力を高めてくれた大きな要因だと考えます。



夕食はお父さんの手料理。フライドチキン、カレー、トルティーヤ、すべて美味



本学からの参加者8名全員で、仲良く大自然を満喫

また、プログラム外での活動でしたが、「カンパセーションクラブ」という、外国人留学生との交流を目的とした、現地学生が運営するサークルへの参加も非常に有意義でした。週に1度開催されるこのサークル活動は、現地の学生と交流できる絶好の機会であったため、ネイティブが話す英語にどっぷり浸かりながら表現力を磨くことができました。留学は英語学習が目的ではありませんが、現地で暮らす方との交流もそれと同等に重要な要素。親しくなった現地の友人とは帰国後も連絡を取り合っています。

帰りの飛行機で英語力の変化を感じる

アウトプットとインプットのバランスが良い授業に加え、友人との交流やホストファミリーとの生活で楽しみながら英語力を向上できました。1か月近くを過ごし、帰りの飛行機の中かでアメリカのTV番組を視聴したとき「(行きの飛行機の中で番組を視聴した時より)英語がするすると頭に入ってきて、スムーズに理解できる!」と成果を実感することができました。

また、豊田工大の参加学生とのつながりを深められたのも良かったです。お世話になったホストファミリーとパーティーを開き、みんなで日本食を作って振る舞ったのも良い思い出です。



カリフォルニアの青い空もと「とにかくトライしてみてください」を実践

Case 4



参加学生
池野 音葉さん
Otoha IKENO
学部3年生(南山高等学校[愛知県]出身)

まずは学内の仕組みをフル活用

学部1年生のころからiPlazaの活動を利用するなど、英語学習に力を入れて取り組んできました。その実力を本場で試してみたかった、というのが一番の参加理由だと考えています。

入学当初、自分の英語力不足を思い知るようなことがいくつかあり、とても悔しい思いをしました。これは何とかしなければと焦りましたが、学内にはiPlazaという、学生ならだれでも利用できる英語学習のための仕組みがあるため、積極的に参加して英語に触れるようにしました。1年生は特に、多くの学生がiPlazaを利用します。みんなこれから英会話を学ぼうとする人ばかりなので、英語を話すことに抵抗を感じないですし、ネイティブの先生方も優しくサポートしてくれるので、iPlazaは「英語学習のハードル」を下げてくれたように思います。iPlazaの活動は私にとって「サークル活動」といえるほどで、その甲斐もあって、入学当初よりTOEICスコアが300点以上アップし、800点を超えるまでになりました。

とはいえ、まだ「英語を学ぶ場での英語」しか経験したことがないため、一般のネイティブの方とも交流ができる本プログラムへの参加を希望しました。また、大学より渡航費・授業料等の費用の一部を助成してもらったことも参加の決め手になりました*。

思い通りにいかない海外生活

期待したとおり、現地の方と交流する機会が多く、自分の英語力を把握することができました。このプログラムは滞在先がホームステイとなっており、現地のご家庭で生活しますが、私の滞在先は一人暮らしでお仕事をされている方のお宅でした。想像していた「家族でワイワイ生活」とは少し異なりましたが、洋画と一緒に見ておしゃべりするなど、自分から機会を作るようにしました。それにより「生の英語」

でリスニング力を鍛えることができたと思います。思い通りにはいかないこともありますが、頭を切り替えることで現状を打破していくことも海外生活では大事なことだと思います。

授業は、発音のクラス、工学的な専門用語を学ぶクラス、ビジネス英会話のクラスなどがあり、積極的にアウトプットを促すような授業が主でしたので、間違えても話す勇氣、堂々と英語を話す度胸がついたと思います。

次のステップに向け経験を活かす

海外の大学を経験できたこと、また、自分が海外でもなんとかやっていると実感することができたことにより、この先の可能性が広がったような感じがしました。4年生に進級し、研究室に正式に配属されると研究中心の生活になっていくと思います。研究という専門性が求められる場面においても、英語が私の世界をより大きく広げてくれると思うので、これまで積み重ねてきたことを十分に活かしたいと思います。まずはTOEIC900点越えを目指します!

*English Step-Up Point (E-SUP) 制度
TOEICへの取り組みやiPlaza活動を通じて、ポイントを獲得・蓄積する制度。要件を満たすと、学部3年次の指定海外留学プログラムにかかる費用が一部助成される。



アウトプットを促すような授業では、「間違ってもいいから話してみよう」という勇氣が湧く



本場の英語のほかに、本場のディズニーランドも堪能



「英語を学ぶ場での英語」から一歩踏み出すも堪能